



2024年11月8日

各 位

会 社 名 K O Z Oホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 森下 将典
(コード番号：9973 STANDARD)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 毛利 謙久
(TEL. 03-4586-1122)

2024年12月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、2024年2月14日に公表いたしました2024年12月期（2024年1月1日～2024年12月31日）の通期連結業績予想（以下「期首予想」といいます。）につきまして、下記のとおり修正することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 2024年12月期の通期連結業績予想数値の修正（2024年1月1日～2024年12月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円銭)
前回発表予想 (A)	17,000	20	25	△50	△0.24
今回発表予想 (B)	17,500	△340	△330	△410	△1.80
増減額 (B-A)	500	△360	△355	△360	—
増減率 (%)	2.9%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2023年12月期 通期)	13,054	△237	△213	△338	△1.66

(2) 通期連結業績予想の修正理由

当社の2024年12月期第3四半期連結累計期間の連結業績につきましては、本日付「2024年12月期第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」にてお知らせのとおり、売上高130億72百万円（前年同期比52.8%増加、営業損失3億27百万円（前年同期は1億42百万円の営業損失）、経常損失3億11百万円（前年同期は1億34百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失3億51百万円（前年同期は1億17百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となり、売上高を除き、前年同期の業績を下回ります。上記に記載する第3四半期迄の業績、及び、最近の業績動向を踏まえ、期首予想からの修正理由をお知らせいたします。

1) 事業セグメント別の期首予想に対する営業利益差異の主要因

事業セグメント	期首予想	期首予想 差異額	業績予想 (修正)	対象企業	期首予想との 差異に関する内容
① 小売事業	△20 百万円	△70 百万円	△90 百万円	株式会社小僧寿し	・採用コストの増加 ・最低賃金の上昇による人件費増加
				株式会社だいまる	・競争激化による売上高の減少
② 飲食事業	113 百万円	△115 百万円	△2 百万円	アスラポート 株式会社	・新店出店開発の遅れに伴う計画差 ・M&Aによるのれん費用
				株式会社T B J	・円安による輸入食材の高騰
③ 流通事業	△18 百万円	△99 百万円	△117 百万円	東洋商事株式会社	・堅調な売上高の確保による増益
				モリヨシ株式会社	・原材料費の高騰によるコスト増加
				株式会社デリズ	・原材料費の高騰によるコスト増加
④ 海外事業	15 百万円	△48 百万円	△33 百万円	SUSHI BOY	・北米に展開する飲食店の収益計上 (期首計画時点では未計上)
				ASRAPPORT France 等	・出店店舗のオープニングコスト等
⑤ 本部	△70 百万円	△28 百万円	△98 百万円	K O Z Oホールディ ングス株式会社	・持株会社化に伴う実施費用 ・HD化記念優待の実施 等
(合計)	20 百万円	△360 百万円	△340 百万円	—	—

① 小売事業セグメント

小僧寿しにおきましては、前年同期と比較し売上高は増加しておりますが、人材不足に伴う採用コストの増加による影響額が△15 百万円、最低賃金の上昇による人件費増加による影響が△35 百万円生じる見込みです。だいまるにおきましては、近隣スーパーマーケットとの競争激化に伴う来店客数の減少により、売上高が減少したことから、△20 百万円の影響が生じる見込みです。

この結果、期首予想と比較し売上高は増加するものの、営業利益は△70 百万円減少し、△90 百万円となる見込みです。

② 飲食事業セグメント

アスラポートにおきましては、既存店の売上高が堅調に推移したものの、当期計画をしておりました新店出店の開発が遅れている点、2024 年5月に連結子会社といたしました Asrapport Dining USA ののれん費用が発生することから、△35 百万円の影響が生じる見込みです。

TBJにおきましては、当期計画をしておりました「TacoBell」の新規出店3店舗を計画に沿って実施致しましたが、長期に渡る円安の影響に伴い、輸入食材の調達コストが増加したため、△80 百万円の影響が生じる見込みです。

この結果、期首予想と比較し、営業利益は△1 億 15 百万円減少し、△2 百万円となる見込みです。

③ 流通事業セグメント

東洋商事におきましては、昨年の新型コロナ収束以降、消費活動の活発化を背景として、業務用食材の卸売事業の主たる販売先である小売店・飲食店の来店客数の回復に伴い、売上高は堅調に推移しており、9 百万円の増益を見込んでおります。一方で、和惣菜製造事業を展開するモリヨシにおきましては、高騰する原材料価格を販売価格に転嫁する過程において時間を要しており、この影響額が△53 百万円生じる見込みです。また、フード・デリバリー事業のデリズにおきましても、原材料価格の高騰による影響が△55 百万円生じる見込みです。

この結果、期首予想と比較し、営業利益は△99 百万円減少し、△1 億 17 百万円となる見込みです。

④ 海外事業

当社グループの海外事業は、飲食事業セグメントの中核会社であるアスラポートを主体として、欧州・欧米に合計 15 店舗の飲食店を展開しております。また、2024 年6月には、英国の日本食品会社である Japan Centre

Group Limited 及び当社グループの英国における事業展開を企図して設立された英国法人 Kozosushi UK Limited との間で資本業務提携を締結し、持分法適用関連会社とするなど、事業領域の拡大へ向けた取組みを推進しております。

海外事業におきましては、2024年5月に連結子会社と致しました Asrapport Dining USA の子会社である SUSHI BOY, INC. にて運営する8店舗について、15百万円の連結業績への貢献が見込まれます。一方で、欧州において展開する飲食店2店舗において、オープニングコストの発生や、未だ収益改善の途上に有ることから損失を計上しており、この影響額が△63百万円発生する見込みです。

この結果、期首予想と比較し、売上高は増加いたしますが、営業利益は△48百万円減少し、△33百万円となる見込みです。

⑤ 本部（KOZOホールディングス株式会社）

2024年7月1日付にて、当社はKOZOホールディングス株式会社へと商号を変更し、持株会社体制へと移行を致しました。当該、持株会社体制への移行に伴う手続き費用の発生、及び、持株会社体制への移行記念優待の実施等によるコストが発生したことから、△28百万円の影響が生じる見込みです。

当社グループは、2024年12月期の通期連結業績において営業利益の創出を企図して事業を行ってまいりましたが、不安定な国際情勢や円安の長期化等による外部環境の問題、及び、商材価格の高騰、並びに、人材難を背景とした人件費の増加等の影響が各事業セグメントに生じたことから、前回発表予想である期首予想を下方修正することとなりました。

2. 今後の見通しについて

当社グループの各事業セグメントにおいては、当期に明確となった事業上の課題に対する当該対策を講じており、その進捗を踏まえて、新たな中期経営計画の策定を進めております。

なお、本中期経営計画におきましては、現時点までに完了致しました第三者割当増資による資金充当状況を含め、お知らせをする予定です。

以上